

山岳クラブ／ゲーテントーク(ドイツ語 こんにちは)

月報 やまふみ

No.187 2011年 平成23年3月6日発行 山踏み

会 長 / TM
事務局長 / KT
振込口座 / 山岳クラブ ゲーテントーク
ホームページ / <http://www.avis.ne.jp/~gutentag/>
編 集 / ST TS MS
印 刷 /



大斜面のシュカブラ



もくじ

山行報告	1～18
山岳遭難・捜索保険の加入案内	18
2011年度会費納入のお知らせ	19
山行計画	
各種変更届	
来月担当者&編集後記	



11月14～12月2日

ヒマラヤ アンナプルナ BC とジャングルトレッキング (個人山行)

アンナプルナ聖域内のベースキャンプ(ABC)までトレッキングした後、ネパール南部のジャングルをトレッキングし、最後にカトマンズの郊外のナゴルコットに登って、ヒマラヤの山々を展望する20日間のプライベート旅行を妻と2人で行った。

航空券は日ごろの買い物などで貯めた“マイル”を使用し、カトマンズまでビジネスクラスを使用して往復無料。カトマンズからポカラ行きのチケットが約8000円のみで航空代がすんだ。

ポカラでは友人に紹介されたサクラホテルを使用。ホテルオーナーはツアー業務もやっているの、ABCに入るのに必要なTIMS(このエリアに入るために必要な許可書で無料)トレッキング許可書(2人以上に許可で1人1回200Rs 1Rs=1.2円)アンナプルナ保護区入域証(1人1回につき2000Rs)の手続きをもらう。これらの手続き、10日間のポーターの費用、トレッキング中のホテル(ロッジ)代、食費、それにサクラホテルの宿泊代(2泊)これら全ての費用として2人分900USドルを支払った。その他には、トレッキング中に飲んだビール代、ポーターにあげたチップなど。トレッキングの後、チトワンでジャングルをトレッキングしたが、その代金は1人120USドル(2泊3日のホテル代、トレッキング代、交通費など全て込みでサクラホテルのオーナーに依頼)。カトマンズでは少し高級なホテルや日本食レストランを使用してゆとりを持ったが、それでも20日間全てのトータル1人10万円以下で済ませることができた。

ABCトレッキング

11月15日 フライトは開港したばかりの羽田から夜の0時20分に出発、バンコクに5時20分到着して10時30分に出発、カトマンズに12時45分到着して13時20分出発、目的地のポカラにその日の15時45分に到

着した。夜間飛行ながら、ゆったりしたビジネスクラスの椅子で快適に飛ぶことが出来た。ポカラ空港からタクシーで知人に紹介されたサクラホテルに入る。オーナーにパスポート、顔写真を渡し、ABCに入るのに必要な手続きを依頼する。夕方、ポカラの町を散歩して、夕食を取ってホテルに帰る。

16日 ポカラ(900m)→ティルケドウンガ(1577m)

早朝、手配しておいたタクシーで、標高 1592mのサランコットに登る。ここはヒマラヤの展望台として知られ、アンナプルナの朝焼けを期待して、冷たい風が吹き付ける中で沢山の観光客と一緒に夜明けを待った。しかし、あいにく薄い雲がかかっていてヒマラヤの峰は見えず、待たせておいたタクシーでホテルに帰る。

今日のはんびりポカラで過ごし明日からトレッキングを始める予定でいたが、ホテルに帰るとオーナーが、入山許可証が出来たので、今日にも出発できるという。それなら、すぐ出発しようと決め、ポーター兼ガイドに来てもらう。名はタラさんといい、昨年友人が ABC に入った際に使った人で、言葉(英語)はあまり出来ないが、人柄が良いからと紹介され、あらかじめ指名しておいた。

昼前にタクシーで、ナヤプールに行く。私と妻は、雨具、水、カメラなどをサブザックに入れて背負い、タラさんに我々2人のザックを背負ってもらう。ポーターに背負ってもらうのは 20kg までで、私らが頼んだのは 15kg ぐらい、小柄な彼がザックを 2 つ背負い、手に自分のザックを持って歩くのは、ちょっと、気の毒な気がする。ナヤプールでモディコーラ(川)の吊橋を渡って道沿いにある粗末な小屋で昼食、ここから急な石段を登ってゆくと、谷の奥にマチャプチャレが白く大きく見えてくる。段々畑の中のロッジが数件ある集落をいくつか過ぎ、棚田の中のティルケドウンガ(標高 1577m)のロッジに宿泊する。

17日 ティルケドウンガ→ゴレパニ(2853m)

朝、歩き始めるとすぐに高度差 600mの石段の登りになる。今日も天気良く、鋭く天を指すマチャプチャレと白いアンナプルナを眺めながら、段々畑といくつかの小さな集落を通る。麦など収穫したばかりの畑の脇にピンクの桜の花が咲き、セミが鳴いている。日本は今、初冬の季節なのに、ここは乾季の季節で季節感がまったく異なる。途中の茶店で昼食をとり、さらに石段と森の中の道を登る。民家の庭先で、マリファナを見る、ハーブのような独特な香りがした。ゴレパニに到着、ここはすぐ近くのプーンヒルに行く道、ダウラギリの方に行く道、そしてアンナプルナへ行く道の分岐点にあり、多くのロッジがあって、その中の一番高い展望の良いロッジに入った。明日の朝の日の出を期待する。



脱穀風景 谷の向こうに段々畑

18日 ゴレパニ→スプラン

今日は早朝にプーンヒルに登ってヒマラヤの日の出を見る予定。アンナプルナやダウラギリが良く見えるはずで期待する。朝 5 時、ロッジの窓から外をのぞくと、早くもプーンヒルに向かう登山者がヘッドランプをつけて通り過ぎて行く。しかし、良く見ると、外は濃い霧に覆われている。日の出は期待できそうにないのでプーンヒルに行くのは中止し、再びシュラフに入って休む。今回の旅でダウラギリが見えるのはここだけでありとても残念に思う。7 時、チベットパン(油で揚げたパン)にコーヒーの朝食を取り、8 時半に出発。ラリグラス(シャクナゲ)の巨木の森の中を登り、見晴らしの良い草地の尾根を歩き、その後、約 600mを一気に下ってタダパニのロッジを過ぎてさらに 200mほど下ったスプランの一軒宿のロッジに泊まる。今日は登り下りが激しく疲れを感じる。

19日 スプラン→シヌワ(2100m)

今日も快晴、ロッジの畑の中を過ぎて、林の中の道を数百メートル下ってモディコーラ(川)の支流の吊橋を渡り、今度は林の中の道を 600mほど登ってチョムロン(1951m)に到達。ここは学校や郵便局、レストランやロッジなどがある山の中の大きな集落。ここで昼食をとり、ここからチョムロン川まで長い急な石段を下りる。学校帰りの子供たちに会う。彼女らは制服を身に付け、髪に赤いリボンを付け急な石段を飛び跳ねて歩き、こちらのカメラにポーズを作ってはしゃいでいる。大人は粗末で汚れた衣服を着ているが、子供たちは日本の子供と変わらない姿をしている。子供たちに教育を受けさせることにとっても熱心なようだ。チョムロン川の吊橋を渡ると、今度は急な登り、壮大な棚田を眺め、民家の脇を通過してロッジが2軒あるシヌワに到着。マチャプチャレ

の鋭い尾根が目の前に迫ってくる。



石段の道を下校する生徒



マチャプチャレ

20日 シヌワ→ヒマラヤホテル(2893m)

モディコーラ沿いの道を歩く、バンブーというロッジが5軒ほどの集落を過ぎる、今日は雲が低く垂れ込めて途中で雨になる。このあたりから集落がなくなり細い山道になる。樹上にサルの子を見る、タラさんの話ではこのあたりにはサルのほかにトラもいて以前見たことがあるという。ヒマラヤは今も隆起を続けているといわれ、谷が深く険しい斜面が切り立っていて、登り下りが激しい登山道が続く。

ヒマラヤホテルは名前から立派なホテルを予想したが、普通のロッジが1軒あるだけの地名で今日はここに宿泊。我々が歩いたルートでのロッジでは、どこも同じメニューを使用していて、提供する食事の種類と料金はほとんど同じ。メニューは各種のスープ、チャーハンなどの各種のライス、各種のパスタとマカロニの料理、ポテトとチーズの料理、地元の料理の蒸し餃子のモモ、ポーターなどが食べるダルバート、これは、30cmほどの大皿にライスが盛られその脇にダル(豆)スープ、鶏肉のカレー煮込み、サークという青菜の炒め物が盛られた料理で、ポーター達はこれを3食食べている。ボリュームが充分あるうえ、ライスも付随の料理もお代わり自由で、食べているともっと食べろと催促される。私もドルバートを良く食べた。ビールやソフトドリンクもあり、毎日夕食にビールを飲むのを楽しみにした。メニューの料金はどれも数百円以内、メニューの中に宿泊料も書かれていてこれも数百円、サクラホテルにすべて前金で支払ってあるが、このルートではロッジの食事をいくら食べても知れている。ビールを飲んで満腹になるほど食事をしても2千円ぐらいか。シャワーはこのロッジも用意されているが、屋根のソーラーパネルで暖める方式で、曇っている日や、2千メートルを越す高度では、冷たい水の状態でシャワーを浴びることが出来なかった。また、客室はベッドが2~3台の個室でプライバシーは保てるが、どこのロッジでも寝具がひどく湿っていた。我々は日本から持参したシュラフを使用したので、快適に休むことが出来た。

21日 ヒマラヤホテル→マチャプチャレ BC(3650m)

天気良、昨日の雨で道がぬかるむ。森林がなくなり、開けたモディコーラ沿いの道を歩く。マチャプチャレのすそを回りこんで、その姿は岩に隠れて姿が見えない、代わりに正面にグレイシャー・ドームが見える。高度と連日の歩行で疲れが出て休む回数が増え、歩みが遅くなる。途中で昼食をとり、2時前にマチャプチャレ BC に着く。ここには2軒のロッジがあり、その1軒に宿泊。午後になると霧が出て、目前にあるはずのマチャプチャレも見えない

22日 マチャプチャレ BC→アンナプルナ BC(4130m)

今日も天気良、ABCまでは沢沿いの緩やかな登りで、普通に歩けば1時間半ぐらいで行けるが、高度の影響と疲れで歩みが進まずヒマラヤヒダが刻まれた白い峰々の展望を楽しみながらゆっくり歩いた。4時間ほどかけてABCに到着。

昼食後、ガイドと2人でアンナプルナサウス側の丘に登る。雪が付いた急な斜面をアイゼン無しで登るのでちょっと危険。ABCより150mほど高い丘に立つと、アンナプルナI(8091m)ガンガプルナ、マチャプチャレなど8000m級の山々が四方を囲み、眼下には回りの氷河から押し出された広大なモレーンが広がりその出口の丘に小さくロッジが見下ろせる。地元民から聖域とみなされるほど美しく、神々しい峰々がぐるりと周りを囲

んでいる。

ここ数日、午後になると霧が出るが、今日は夕方まで晴れている。登ってきた谷間から霧が押し寄せるが幸いこちらには登って来ない。周りを歩いて写真を撮る。夕日にガンガプルナ、マチャプチャレが赤く輝く。寒い外で静かに暮れゆく山々を眺めた。



アンナプルナ I 8091m



ガンダルバチュリ 6248m

23日 ABC→バンブー(2490m)

夜、小用で外に出ると、稜線に囲まれた空に無数の星が輝き、その中にオリオンが一際輝いていた。明け方には美しい山の姿が見られると期待し再びシュラフに入る。朝、6時、起きて外に出ると降りしきる雪の世界、すでに10cm以上も積もっている。期待した朝の展望がまったく無い。朝食を済ませ降りしきる雪の中を下山、MBCまで下ると雪が止みマチャプチャレが雲の中から鋭い山頂を見せている。登りと同じルートをバンブーまで下る。

24日 バンブー→ジヌー(1400m)

シヌワから登り下りの激しい集落の中の石段の道、最後に700mほど下りてジヌーに宿をとる。ロッジの近くに温泉があるがそこまで歩くのが嫌で、ロッジのシャワーで汗を流す。久々の温かいシャワーが心地よい。

25日 ジヌー→ナヤプール、

ジヌーからはモディコーラ沿いの比較的平坦な道。農作業が行われている段々畑の田園風景を見ながら歩く。ナヤプールからバスでポカラに帰る。

26日 ポカラ滞在

ガイド兼ポーターをしてくれたタラさんが我々を自宅に招待してくれた。10畳ほどの1室に奥さんと10歳ぐらいの男の子、生後半年ほどの女の子の4人家族。奥さんがライスとチキンカレーのダルバートを作って歓迎してくれた。タラさんと息子が、我々をマーケットやヒンズー教寺院を案内してくれた。

チトワン、ジャングルトレッキング

27日～29日 ポカラからバスでチトワンへジャングルトレッキングに行った。バスがポカラとカトマンズを結ぶ国道の中間付近から南下する道路に入ると、舗装が痛んで剥がれ、砂埃が舞い上がる。数百メートル下に谷底を見る断崖の道を守る。トラックが行き交い、クラクションを頻りに鳴らしながら走る。この国では追い越す車の方が優先のようで(?)、前の車にどけどけ!とばかりにクラクションを鳴らして追い越してゆく。途中で一回トイレ休憩があり、12時半にチトワンに着き、迎えの車に乗ってタイガーキャンプホテルに入る。ウェルカムランチを取りながら、オーナーから2泊3日間のスケジュール等の説明を聞く。

夕方、近くをトレッキングに行く。ジャングルを隔てる川の、岸沿いの道を歩いてゆくと、川の中で大きな黒



ガイド兼ポーターのタラさんの家族と

いものが動いている。野性の大きなサイが体のほとんどを水に沈め、大きな角を水面から出して水浴びの最中。そのサイから20mほど離れた岸辺に座ってサイの水浴びをながめていると、向こう岸のジャングルの中から、大きなゾウが現れ、サイの10mほど上流に入って気持ちよさそうに水浴びを始めた。巨大な野生の動物のツーショットを日が暮れるまで眺め、ホテルに帰った。

翌朝、まだ霧がかかっている川をカヌーで下る。ガンの仲間など多くの水鳥や岸辺の木の上のクジャクを見る。2~3キロ下って岸辺に上がり、ガイドの案内でジャングルの中を歩く。声を立てず、なるべく静かにガイドに続いて歩く。クマやシカの足跡がある。樹上のサル、野鷲(ニワトリの野生種)などをガイドが見つげてくれる。しばらくジャングルの中の道を歩いていると、突然、野鷲の鋭い声がした。ガイドが「付いて来い」と指示して早足でジャングルの中に入ってゆく。木の枝の下を、身をかがめて進むとガイドが立ち止まり地面を指差している。そこには小鹿が横たわっていた。ガイドは「豹が狩りをしたばかりだ」と言ってあたりを伺う。豹はせっかく狩りをしたのに我々人間が来たので獲物を置いて立ち去ったのだろうか。まだ近くにひそんでいるのだろうか。ガイドは木の杖を持っているだけ、もし豹が出てきたらどうするのだろうか。興奮しながら小鹿から静かに離れた。



ゾウと水中のサイ



豹に狩られたばかりの小鹿

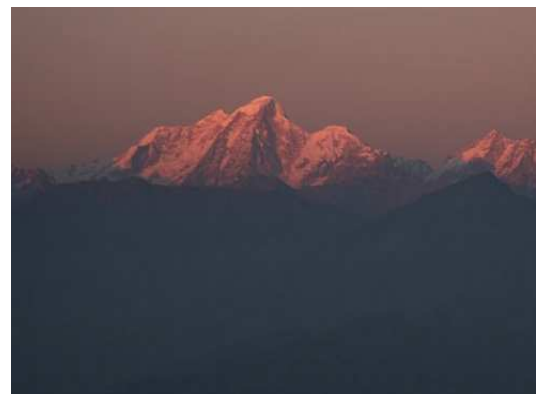
夕方、ゾウに乗って再びジャングルに入る。川を渡り、沼地に入りジャングルの中を分け入る。ジャングルの中はゾウが歩く道が付いているが、邪魔な木は足で踏み倒し、太い枝を鼻でへし折って進む。シカやサルがいる。川岸に大きなワニが2匹いた。暗い川岸に大きな黒いサイが寝そべっていて我々が近づくとむっくり立ち上がった。激しく揺れるゾウの背中で、ジャングルの自然を楽しんだ。翌朝早くバスでカトマンズに向かう。

ナガルコット 10年ぶりに訪れたカトマンズの町は喧騒の世界、狭い道路に車とバイクが車線を無視して、道巾いっぱい埋め尽くしている。エンジンとクラクションの騒音、排気ガスと埃がすごい。信号を消して警官が交通整理をしている(渋滞がひどく、信号は役に立たないのだろう)。警官もドライバーも黒いマスクをしている。

カトマンズでは、少し贅沢をして日本人がマネジャーのホテルに泊まる。久々に日本食を食べ、浴槽に浸かって疲れと埃を取る。

翌日、タクシーを頼んで、市内の世界遺産のヒンズー教の寺院を見学、さらに郊外に出てヒンズー教の寺院を2つ見学した後ナガルコットの丘に登る。

この丘はヒマラヤの展望が良いことで知られる。見晴らしの良い新しく豪華なホテルに宿をとる。到着してまもなく、ホテルの部屋から夕日に染まる雄大なヒマラヤの峰々が見られた。ガネシュ、ランタン、ガウリサンカール、その脇に小さくエヴェレストも見える。旅の最後をヒマラヤの雄大な姿を楽しみ、翌日、カトマンズに帰り20日間の旅を終えた。



夕照のガウリサンカール

12/31～1/2(金～日) 伊豆 城山フリークライミング (例会山行)

L S川 K子 K林和 K山

恒例の年越し山行に初参加してきました。といってもこの記録を書いているのは山行から2カ月以上経過してしまっているため記憶が定かでありません。平にご容赦を。

31日朝4時にみどり湖PAにて拾われ城山に向かう、前日まで仕事をしていた私の睡眠は3時間強、車中では爆睡を決め込む凶太い奴でありました。伊豆に到着するとすっかり夜はあけて日が高くなっていました。

荷を整理してアプローチを登って行きます。初日は山頂をすぎて少し下ったあたりにあるエリアにいきました。途中山頂からは富士山がぼんやりおがめました。クライミングエリアに着くとまずはそれぞれ5.8～5.9ぐらいでアップ、この程度なら私も何とかオンサイト出来る？その後はそれぞれにやりたい課題を行う。

わたしは5.10aの課題にマスターで挑戦、一か所ムーブが分からず敗退。K子さんにトップロープをかけてもらい再挑戦しムーブを解決、その後自分でリードで完成させることができました。やっぱりオンサイトは難しいです。その後、5.10bの課題にもマスターで挑戦、核心部でテンションをかけてしまいましたが、何とか上まで抜けることはできました。あのワンテンションがくやし～！そんな事をしているうちに一日目は終了。帰路につきました。

夜は温泉で汗を流し、スーパーで買い物をして鍋を囲んで酒盛り～、宴会～。

2日目は城山のメインウォールの隣にある狭いエリアに行く。

このアプローチはロープを伝いピンで作った足場を渡っていくような結構こわいところでした。このエリアで私は5.10cの課題にどっぷりはまる。ちょいかぶり気味の課題で何とか上まで抜けることはできるのにレッドポイントがどうしてもできない。手登りをしているせいでしょうか、途中で手が終わってしまう。まだまだ修行がたりません。この日はほかにも上ったはずですが、この5.10cが印象に残りすぎてほかのことはあまり覚えていません。

3日目の最終日はメインウォールからは外れた場所にある独立したエリアにいきました。

このエリアには5.9、5.10a、5.10cと私向きの課題がたくさん～。5.9、5.10aはオンサイトになんとか成功。5.10cは非常にお買い得な(ほんとに5.10cあるの?)一本をレッドポイントに成功する。その後別の5.10cに今度はマスターで挑む(5.10cマスターは初挑戦です)レッドポイントはできないが何とか上まで抜けることができ、ムーブを探って降りてきました。時間もなくなってきたし、休憩をとってさっきレッドポイントを逃した5.10cに最後のトライのつもりで再挑戦しました。そしてこのトライ中に非常にこわい思いを味わいました。3ピン目までクリップをとり4ピン目を取ろうとランナウト状態で本当に不意に手が外れ落下、1ピン目付近まで一気に落ちる。まったく予想してないときに落ちるというのをはじめて経験しました。いや～、こわかったです。ビレイしてた方もこわかったと思います。でも怪我がなくてほんとによかったです。とりあえず最後に一つやらかして私の正月クライミングは無事終了しました。

K山 記

1月8～9日(土～月) 伊豆・城ヶ崎でクラック三昧 (個人山行)

CL:K子 他 2名

2011年1月8日(土)

待ちに待った3連休は、クラックの宝庫である伊豆・城ヶ崎へ。今後行かれる方のためにコースタイム。

02:45 須坂IC発

03:45 +01:00 塩尻IC 87.3km

04:00 +01:15 諏訪IC 105.9km 気温-11度!

04:55 +02:10 甲府南IC 174.6km

05:55 +03:10 富士IC 236.1km

06:10 +03:25 三島IC 255.5km

06:40 +03:55 城山アピタ 276.3km

07:25 +04:40 伊豆高原駅 308.9km

イメージでは6時間仕事であったが、夜間走行で道路が空いていたこともあり思ったよりも早く到着！午前9時過ぎに関東からのクライマーたちと合流！

城ヶ崎もクラックもほぼ初心者のワタシ。気を使ってくれたのか、初日は「ファミリークラック」へ。エリアは多くの人で賑わっていた。

まずは「ベビー・クラック(5.8 NP)」で足慣らし。花崗岩と違って手の皮が痛くない分、手足のフリクションは低い感じ。けれども楽しく、OS/m。



次に、左岸にある長めの「サム・クラック(5.9 NP)」にトライ！美しいクラックラインがコーナーに走り、プロテクションも取りやすくて快適！OS/m。

次に「シスター・クラック(5.9 NP)」へ。この辺りから、しっかり足もクラックに決めていかないと厳しくなってくる。なんと なく潮が乗っている感があって、足元が心許なかったりもするが、なんとか OS/m。

人気ルートは順番待ちであったので、比較的空いていた「マザー・クラック(5.10c☆☆NP)」へ、上から回り込んでトップロープをセッし試登！な、なんじゃこりゃ？まさに胎内から出る部分がきびしー！でも、折角なのでムーヴを固め、プロテクションのサイズも確認。

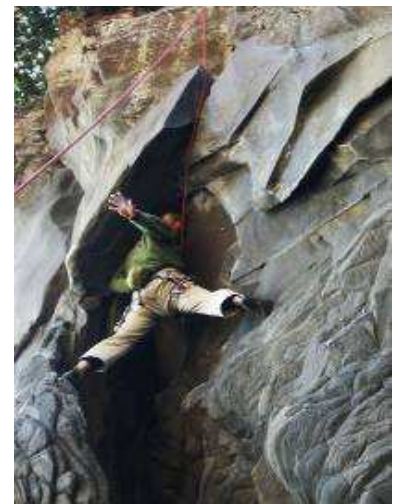
必要なギアもだいたいわかったので、最小限のギアを順番にラックに並べてトライ！

胎内では、母のやさしさを感じながら大レストができる^^。以前、このルートでグラウンド・フォールによる死亡事故があったとのことなので、アンダークラックにしっかり2つのカムをキメる。そして核心へ。

ガバを取ってからバランスの悪いムーヴが求められるが、試登の甲斐があってなんとか2便でRPできた！地味～にクラックのグレード更新。

夜はクライマーの宿として有名な「大重丸」で新年会！お刺身にカマにと、海の幸に舌鼓を打ちつつ、たっぷりクライミング話しに花吹雪が舞ったのであった。ちなみにクライマーは1泊3食付いて6,000円！

予約はお早めに。0557-53-0831



2011年1月9日(日)

午前6時半、起床。朝から豪勢なご飯！

磯の香り満点の味噌汁でモチあっぷ！

今日は「あかねの浜」エリアへ。どーんと横に広がるエリアには、既に多くのクライマーが取り付いていた。まずはアップで「キャンドル(5.7)」へ。見た目カンタンそうではあったが、なんとなくキヤメの4番を腰に、びびり性なもので。が！これが正解。途中のワイドで4番が活躍！ここがめっちゃワルく、アームバーを駆使して必死に越える。途中も支点が取りづらく、高度感もあつたりで気分はアルパイン。なんとか OS/m できたものの、これでセブンって理解不能、要注意。

そして「ゴミステーション(5.11c☆☆)」へ。なるほど、取り付きにゴミステっぽい白い岩が。それにしても、かぶってる。TRがセットされたところで、ワタシも触らせていただく。が！この傾斜でフィンガーってありえん。赤子のように傾斜部で弄ばれたので、すござ退散。

後でピンキーという技(フィンガーをきめたら手首を上げてクサビ効果を出す)を教えてください。

ワタシは分相応なルートということで、三ツ星ルート「カーム・フライデー(5.10b)」へ！静かな平日の金曜日に初登されたのかな？？気軽にオン

サイトライするが、下部でどハマリ。なんとかトップアウトするも、パワフル系なルートで激しい消耗戦となった。

15時を回ると寒くなってきたので最終便で再度、フライデーにトライ！一度登っていると、カムのサイズやセット位置がわかっているので、1便目よりは安定。厳しい出だしを越え、後半もヒヤヒヤしながらもRP！

ココで学習。特に出だして屈曲したりトラバースする部分ではロープの振動でカムが歩きやすいみたいで、下部の2つが奥に入って回収困難に陥った。最終的には回収できたが、セット位置やヌンチャクでの調整なども考える必要を感じた。

2011年1月10日(成人の日)

今日も午前6時半、起床。予報は晴れであったが、外はみぞれ交じりの雨！？焦るなんとかは貰いが少ないとも言われ、朝食をしっかりと堪能して出発！

折角なので、ウワサの「キングコング(5.11a☆)」を見に門脇崎へ。1回1日500円の駐車場に止め、灯台からつり橋を渡り、かどかけの入江や門脇崎エリアを散歩しながらルートをガイドしていただく。



一旦車に戻り、いがいが根Pへ移動し、歩くこと20分くらいで日蓮崎エリアへ。写真中央の右上するルートが「イブ(5.10d☆☆)」、右隣が「インディアン・ドール(5.10d☆☆)」、「スーパー・シリアス・ジャム(5.10c☆☆)」。

血迷って、イブへOSTライ！が、苦手なフィンガー系で、しかもかぶっている。離陸直後にあつけなくテンション。何をどうしても登ることができず、人工で終了点まで抜ける。グレードが上がるとごまかしが効かない。

インディアンにもトップロープをセットして登るも、カブリの中で中途半端なハンドが続いて厳しい！最後に、名前からしてワルそうな「スーパー・シリアス・ジャム」へ。名前のとおり、

上部のフィンガーはつるつるで止まる気配なし。シリアスなジャム能力が問われる。回収が終わって荷をまとめる頃には、今日もヘッドランプを点灯。

城ヶ崎は近くはないけれど、冬季にクラックを練習するには最適のエリア。海金剛もあるし、興味のある方は来年にいかが？

(K子 記)

1月8日(土) 妙高赤倉山南東尾根山スキー (例会山行)

L K原 SL M井 K池 K池 K林 H

池の平スキー場トップ(9:20)→1870m 尾根(1:05~:20)→1500m 林道(2:20)→カナメスキー場(3:00)

寒波継続の今冬、ラッセル覚悟・パウダー期待で出発。

ゲレンデトップにシュプールなしのふかふか深雪で膝位のラッセル。林道下からM井さんにトップを譲る。

弱層不形成の天候続きなのでチェックはせずにどんどん登る。スキー場公式発表 170cm とこの時期とすれば多めの積雪量だが、ブッシュは埋まり切らずで、ルート取りに少々苦労する。

今回は人数も多いので、いつもの 1920m 細尾根肩までは登らず、一段下の平地でストップとする。かなりの手ごたえのない深雪なので、緩傾斜の下部カットの積りで少休後滑降開始。K池さんの奥さんも初トレースである。

ブッシュが埋まり切っていないが、軽い深雪は気持ちが良い。自由滑降・メンバー集結を繰り返し、標高差 300m を滑り下りて林道に到着。後半下りラッセルを嫌ってカナメまで 15 分ほどシールで登り返す。

カナメから最後の林間を気持ち良く滑ってスキー場に出、後はゲレンデを飛ばして終了。

雪が落ち着いたら全コース楽しみましょう。

K原 記

1月8～10日(土～月) 南ア 甲斐駒ヶ岳 (例会山行)

CL T島、SL S藤、T野、N島

行程

1日目;松本合庁6:00、戸台8:36、大平山荘13:50、長衛小屋14:20

2日目;長衛山荘6:00、仙水峠7:20、駒津峰9:00、山頂10:30～10:55、仙水峠12:50、長衛小屋14:00

3日目;長衛小屋7:00、丹溪山荘9:00、戸台11:30

1日目; 前回の霞沢岳でハンパなく打ちのめされたものの、喉元過ぎれば何とやらなのか、正月太りを少しでも解消の悪あがきなのか、理由はともあれ再び参加を決意。天気予報では3日目は下り坂だが、連休中は好天とのことなので期待も大きい。

松本合庁集合で下道を駆使し、高遠の分岐で道に迷いつつ戸台の駐車場着。10台近く車があり、何となしに有名どころなのを実感。丹溪山荘まではひたすら河原歩きで、流れ込みを渡らなければならないところが何カ所もあり、石が凍っていて何度も滑りそうになった。丹溪山荘からは林の中を登っていく道でだんだん雪が増えてきたが、しっかりふみ跡になっているので黙々と登っていく。太平山荘に近づくにつれて雪も深くなり、北沢峠はしっかり銀世界だった。長衛小屋のテント場にはテントが3、4張り、どうも先週年末年始からほとんど雪が積もっていないらしく、前に張られたテントの跡がうっすら分かるくらいだった。沢水がくめたので雪を溶かす手間もなく(上流に小屋があるので微妙ではあるが)、小屋のトイレが使用可能だったので快適。ときおり強風でテントがあおられるが、久しぶりの満天星空を拝むことができた。

2日目; 朝方うっすら明るんできた中を出発。ここもしっかり道ができており前回の霞沢岳のラッセルを考えると楽々(この余裕も今のうちだけとは思いません)仙水小屋に到着。しかし、林の中をさらに登り仙水峠手前で林を抜けたとたんものすごい強風が吹きつけてきた。一気に顔面凍りそうでフードを目深にかぶるが、どうも嫌な予感が…。仙水峠からまた林の中に入ったので風は少し弱まったが、再び林を抜けると風が半端ない。天気は申し分ない晴れなのに。雪上訓練のとき耐風姿勢の練習をちょっとしたが、まさに実践。飛ばされそうになるのを踏ん張るのに精一杯で、登るための足を上げるのに力が入らない。風が弱まったのを見計らって歩くととたんに強風で吹き飛ばされそうになる。これはやばい相当やばい死ぬ～っ!!、と心はずでにリタイアモードだったが、他の誰一人動じることなく先に進むので、心の葛藤と強風と戦いつつ何とか足を動かし駒津峰にたどり着く。気力すりへりまくりだったが、峰を越えたら風が弱まった(ような気がした)ので、気を取り直して頂上を目指す。頂上までは岩場が続く、アイゼン慣れしていない私には足元がいまいちおぼつかない。六万石を抜け、直登か巻き道かで悩んでいると、先に歩いていたおじさんが巻き道ラッセル断念して戻ってきたので、直登コースに行くことにする。岩の印をたどって、風にも負けず何とか頂上に着いた。天気最高すごい北岳かっこいい登ってきてよかったとしばし苦労を忘れ感動にひたる。が、半端ない風でくつろぐヒマなく、早々に下山。アイゼンで下りるのがまた怖い。もっとアイゼン歩き練習せねば。帰りは行きよりも風が弱まった気はするが、やはり吹き飛ばされそう。さっさささと下りる。林の中に入ると風もなくなり、半分お尻ですべりながらおりていく。仙水小屋でビールを手に入れ、テントに着いたのが14時過ぎ。早い。風が強いのでテントの中でぐだぐだして過ごす。夜になると雪が降ってきて、テントの足跡が埋まるくらい積もってきた。真夜中から攻めれば仙丈ヶ岳行ってこれないこともないというオソロシイ話もあったが、ラジオの天気予報も下り坂といっているので、明日はゆっくり下山することにする。

3日目; 晴れた。昨夜の天気予報は何だったんだ!と言いたくなるくらい見事に晴れた。雪も結局それほどは積もらなかった。この天気はもったいないな—と思いつつも、ゆっくりテント撤収で帰りの準備。帰りの道も歩きやすく、河原まではさくさくの下りで快調。河原も多少積もった雪のおかげで歩きやすかった。屋前にはあつさり戸台に着く。あまりのいい天気ですT島さんは仙丈行けばよかったと悔やみまくりだったが、私には仙丈行くのはいいとしてもその後の荷物背負って駐車場までの河原歩き、それもへってん必至なんて想像しただけで無理。お天気姉さんに少し感謝してしまった。強硬路線はもう少し鍛えてからにしておきます。

お昼には帰路に着いたのでお風呂にゆっくりつかり、高遠の道の駅名物?行列のできるミニクロワッサンを買っていただく。ここまではよかったが、昼食に伊那の農免道路にある中華料理屋でラーメン+ホイコーロー丼を注文したら、これでもかというボリュームに最後の最後に打ちのめされ撃沈。やはりこのメンバーの山行は一筋縄では

いかない。

今回風が強くてほんとに大変だった。加えてこのパーティーは楽しいんだけどきつさハンパない。でも次もきつとまた懲りずに参加しちゃうんだろうな～。葛藤は続く。

N島 記

1月9日(日) 根子岳スキー (例会山行)

L S川 M井 I本 K林(和) S木 S矢夫妻 K池夫妻 K山

根子岳にて山スキーデビューをしてきました。はじめての山スキーに期待と不安を抱えながら当日の朝を迎えました。スキー場に到着後リフトに乗ってゲレンデトップへ。

そこからシールを付けて登り始め、が私はシールを付けるのにすらもたつく始末、先が思いやられます。ところが歩き始めてみると意外と快調に進める。なんだろうこの感じは以前経験したことがある何かに似ている、そう大学時代にちょっとだけかじったクロスカンリースキーで歩くのに似ているのだ。傾斜の軽いところでは快調に歩いて行けるし、歩くのは結構楽しいし、順調に進み、良い山スキーデビューになるのかとおもいました。ところが、山頂近くまで上がってきたあたりから少し傾斜のきついところになると大苦戦。シールを利かせることができずに滑ってしまい全然登っていけない。何度も登っては滑ってを繰り返し、結局S川さんに助けてもらい引き上げてもらうことになる。なんとか斜度のきついところを超えてしばらく行くとようやく山頂直下に着く。すでに先に着いていたメンバーが雪のテーブルと椅子を作ってくれていて昼食になりました。

昼食後はいよいよスキーの本番滑りになります。

私はただ滑るだけだと思っていたのですが…、これが甘かった。圧雪してない不整地を滑るのがこんなに難しく、そしてこんなにこわいとは。何度も転ぶし一度転ぶと起きれないし、ふくらはぎや大腿は攣りそうになるし。滑るのは登るのの倍以上苦労しました。でも後半少し滑れるようになると誰も滑ってない雪面に好きなラインを描いて滑って行くのは少し楽しいと思えるようになりました。苦労した山スキーですがまたやりたいとは思えました。ただし次に行くまでもう少しスキー自体のレベルを上げてから…、せめてまともにパラレルができるようになってから行こうと思います。



K山 記

1月16日(日) 秋葉山から平尾山へ (個人山行)

S木 H

佐渡山へ山スキーに行くはずだったが、長野ではこ一週間毎日雪が降り続き、新雪が多すぎて、ラッセルはもとより、傾斜があっても滑ることが出来ない…という判断で中止。S木さんと、近くの里山平尾富士へ行くことになった。隣の秋葉山を廻り、南パラダスキー場中間点から水辺の小路と松の実コースとした。秋葉山は、2年前平根小学校の子どもたちと登ったり、総合的学習で活動を一緒にしたフィールドである。(担任ではない)登山口は、南パラダから北パラダへのシャトルバスが通る林道途中にある。守芳院というお寺からの道もそれより先にある。一緒に立てた道標や案内などどんな様子か楽しみに登山口で可愛いイラスト入りの看

山頂へつづく階段は、こちらです。



板が迎えてくれた。松の枝に架けておいたが、落ちてしまうのだろうしっかり杭を打って立てられていて一安心。子どもの考える言葉は素朴で面白い・・・と改めて思う。今朝降った雪がうっすらと木の葉の上に積もっているの、滑って歩きにくい。やはり、斜面のあるのが山城だ。しばらく登って、やや平らな部分がある場所に出る。ここは、廓だったとのこと。『ここはいくさのときに 武士が体を休めたところであるわと言います』と書いてある。分かりやすい説明。30分もしたら、頂上に着いた。



頂上手前の道標。寒々しい雪の上に明るく光が灯っているように見える。4年前刈り取った山頂の笹は大きくならず、気持ちよい広場となっている。子どもたちの手作り看板が暖かくほっとさせてくれている。上を見ると、小鳥の巣箱がかかっていた。これは、道標を立てた次の4年生が架けたものだ。何個もある。小鳥団地が出来あがり楽しそう。ここから先は堀割の跡のため2Mほどの崖になっている。このような所が2, 3か所あって林道に出る。その後は、スキー場から平尾山へとたどった。久しぶりに子どもたちに触れ合ったように感じ、心暖かい山行になった。



林 卓子 記

1月23日(日) 北ア/遠見尾根/一ノ背髪村尾根スキー (個人山行)

CL S矢、SL K原、K林和、K池、H、S木

五竜ゴンドラ上発9:05ーゲレンデトップ9:30ー村尾根下降点10:20~11:00ー三本松11:45~12:00ー渡渉点12:45ー白馬47駐車場着14:00

朝イチでスタートする為に、白馬47スキー場のPに車を1台デポして五竜遠見スキー場のゴンドラに乗る。

今回は上のリフトは乗らずにゲレンデを歩いて登ったのだが、ゲレンデトップに到着すると既にBCボーダー&スキーヤーが続々登っており、まあ、お陰で膝上もあるラッセルの苦労はしないで済む。皆さんどちらを?と思っていたが、やはり同じ目的地らしく、すっかり村尾根がメジャーになっていることに驚きました。

わずか一時間ほどの登りで下降点に到着し、小休止&滑降準備。小雪ながら風はほとんどないことがありがたかった。他のパーティも次々スタートし、出だしの狭い尾根は相当荒らされ感があり、嫌な感じ。でこぼこした深い新雪にバランスを取られては転倒としんどい立直しを繰り返した。でも、私的には深い新雪は大好き。

尾根から左の斜面へ出てからは、他パーティのシュプールが無くなったので、気持ちよくパウダーを滑る。・・・かなり深いので少々傾斜が緩いと止まってしまいます。テレ姿勢を入れると止まります。。。う〜ん、別の意味でテレを楽しめません。でも、急斜面ではサイコー! 滑りながらつい「気持ちいい〜!」と声をあげちゃった。昨年滑った時に若干雪崩れることがあった斜面は、今回はそんな心配がない。年末からずっと同じ調子で降り続けているからか弱層がないようなのです。

尾根から谷に下りて、堰堤を巻く。昨年はポッカリ穴が開いて



沢が出ていたが、今回は埋まっていたので落ちてでも大丈夫。でも落ちたら抜けるのに苦労・・・したようです。本流の渡渉点はしっかり雪で埋まっており、シールを付け直して対岸の林道へ上る。林道を下っていると、八方尾根の方から滑ってくるスキーヤーが。彼らは海外の方たちだったけど、コースを知っているのかしら。また対岸へと渡渉するときに47へ到着。運転手さんたち、車の回収ご苦労さまでした。

S木 記

1月29日(土) 黒斑山 (2404m) 蛇骨岳 (2366m) (例会山行)

CL T塚 SL S木 T井 H

車坂峠9:30 槍ヶ鞘11:00 黒斑山頂11:30 蛇骨岳12:30

黒斑山1:10 車坂峠2:30 天気 晴れのち曇り

朝食を食べ終わる頃、朝日が差し込んできた。カーテンを開けると、蓼科が見える。ここに住んで30年にもなるのに居間の窓から見るのは初めて。山頂は白くまん丸、その前に青い双子山がくっきり重なっている。「おそなえ山だ！」佐久地方ではこの山をこのように親しみを込めて呼んでいる。今朝は空気が澄んで特に綺麗。気持ちよい朝になった。

S木邸から二人で車を走らせる。正面に聳える浅間山、昨日は下まで真っ白だったが、今朝は雪の筋を残し、山肌の起伏が浮き出している。予報は外れ最高の登山日和。

車坂峠で集合。「家は、今朝も60センチほど積もって、家の前で雪を見上げるほどあるっていうのに、ここは少ないねえ～」とT塚さん。約60～70cmの積雪。ここではこの位が普通。きゅっきゅと締まっている。

黒斑山は年間通して登山者が多い。車坂峠ですでに1980mあるので標高差420mという手軽さ。冬でもトレースがしっかり付いている。なだらかな車坂峠を過ぎて下る。先行していた人は尻セードできゃーきゃー楽しんでい。展望露岩地までしばらく登り汗をひと拭き。私とT井さんは汗だく。あとの二人は涼しい顔なのだが。

シェルターに着いてアイゼンを着ける。着けなくても大丈夫そうだったが、慣れるつもりで履いて歩くことにする。槍ヶ鞘に出る。浅間山山頂のガスがとれ前掛山が目の前に迫る。トミーの頭までひと登り。冷たい風が吹きつけてきた。早々に黒斑へと尾根をたどる。

雪をかぶった樹林の中を歩く。人通りが多いので枝の雪は落とされていて快適。30分で黒斑山頂到着。すでに3パーティー10人ほどで賑わい、樹林の中で昼食をとっている大きなグループもあった。頭だけ出している道標前で写真を撮る。「さあて、どうします？下って高峰山に登るか、ここから蛇骨岳まで行って来るか。」「やっぱり蛇骨に行きましょう。」ということになり、昼食をとった。

蛇骨まで約30分。振り返ると黒斑の木々が見える。結構下って、10mほど登る。蛇骨の岩山は上部を残し雪で埋まっている。「道標はどこへ行ってしまったのかなあ。」と手塚さんはしきりに探す、倒れてしまったのか無い。ここも風が冷たい。妻恋村の畑を眺め引き返す。

そう言えば、黒斑まで登り返すのが結構な所だったことを思い出すが、そんなことは全く苦にならない。斜面と木々にこんもり盛りあがって着いた雪を眺め、樹林の切れた時見える浅間山の大きな山体を眺め、背中のピッケルが枝にひっかかってちょっと停止をし、時々すれ違う登山者に道を譲って雪を踏み固めて待ち・・・雪中歩行を楽しんだ。

トミーの頭を下ったらアイゼンを外し中コースを下るということになっていたが、外さずそのままおりた。先行するS木さんはアイゼンを着けていないので、斜面を靴で滑って降りる。立ったままちょっと膝を曲げるくらいです～いすいと行く。美味いよね。

一時間で下山。車坂峠には高峰高原ビジターセンターが建てられており、3月いっぱいまで休館だが、利用はできる。中は温かくて、トイレもきれい。登山者には本当に有難い。

雪山を歩く楽しさを堪能できた一日になった。

H 記

2月6日(日) 妙高前山滝沢尾根スキー (例会山行)

L:K原 K池 N田 S矢夫妻

ゲレンデトップ(9:10)前山(10:35-11:00)休憩(11:05-11:25)スキー場着(12:25)

ゲレンデトップより1時間半足らずでハイクアップできる妙高前山。思い起こせば2年前、インフルエンザでドタキャン敗退した山。あの頃は元気だった私も、今では下界の人になり「ひ～ひ～」言いながらお元気なおジ様方のお尻を追う様になった。それでも山に登るのは心地良いものだ。

樹林帯を抜けると雪崩を懸念し小尾根伝いに細かくキックターンで刻んで行くのだが、幸か不幸かアスピリンスノーでシールの効きが芳しくなく、なげなしの腹筋と腕力と気合いでカバー。地味に一步を踏み出していれば自然と標高は稼げ、妙高山とのご対面♪お約束の集合写真を撮り、シールを剥がしてドロップアウト!!男性陣は喜びサ～っと滑降。紅一点へなちょこテレマーカーは山に登る事が好きなのであって、滑りはかなり苦手…(やっぱテレは難しい)。

「ひゃ～ひゃ～」と最初の細い尾根を滑るも「なんか変」?おっと、

ピボットシステムをフリーにしたままだ!ヒールフリーを超えよう滑りとでも言いましょうか?へなちょこ具合(器用?)を披露した所で、滝沢尾根最大傾斜(超～短距離)を辛うじてテレマーカーターンで滑降すると休憩適地。



ここから滝沢尾根は幅広くなり心地良いツリーランとなるのだが、上部のアスピリンスノーは何処?気温が上がり重く滑り難い雪へと変わり、私は雪に弄ばれお約束の顔面ダイブ炸裂。火山地形の浅い沢をモコモコいくつも越え、右へ右へとトラバース気味に滑るも顕著な目印がある訳でもなく、はぐれたら迷走だなあ。それでも雪質が良ければ十分楽しめるコース。個人的には皆様と楽しく山に行かれれば雪質は問いません(…たぶん)。

S矢(み) 記

2月6日(日) 乙妻山スキー (個人山行)

CL:K子(テレ) 他 AWC2 2名(スキー)

06:30に佐渡大橋集合。いつもの駐車場は工事で使えず、林道入口までのわずかなスペースに駐車。06:45 発。07:25 黒姫分岐。がつつりトレースが踏まれているのでラッセルなし。正直、この時期に3人で乙妻はキビシイかと思っていたが、これならもしかしてイケる!?

08:20、佐渡山のコル(標高 1,550m)着。ここで先行パーティに追いつく。彼らは高妻への中尾根を詰めるらしい。一呼吸置いて、シールを付けたまま氷沢川へ滑り込む。氷沢川左岸を高め巻き、崩落地も難なく過ごす。豪雪時には雪崩が心配な第二崩落地も難なくトラバースし、09:20に乙妻沢との出合。10分ほど休憩し出発。

標高 1,750m 付近から、急に斜度が増す。シールが効くうちは良いが、乾いたサラサラな急斜で滑り始めると逆立った毛に雪が入り込んで大変なことに。おまけに一旦シールが外れると粘着が悪くなり、何度も板を外してはシールを付け直すハメに。シールがほとんど役立たずになったワタシはトラバースして稜線を、元気な2人は山頂目指して直登を続ける。が、固いトラバースでシールが板からズレまくり、板を外しては丁寧に雪を払って装着を繰り返す。



いい加減に嫌気がさし、板を担いでツボ足に。この方がずっとラク。そんなこんなで、タイムリミットの 13:00 に。稜線まで上がり、滑走の準備。

時間がないので、すぐに滑走開始。慎重にトラバースし2人と合流。この段階で、既に足はガクガク。。。ケガの後遺症かビビリが入りまくり、とにかく慎重に下る。それはそれは苦勞して、なんとか乙妻沢出合に。のんびりしている時間はなく、再びシールを装着して氷沢川の右岸を登り始める。それでもなんとか、15:30 に佐渡山のコルへ帰着。

お日様も高妻に隠れ、気温が下がり始める。硬く狭い尾根は疲れた足を容赦なく痛めつける。最後の林道もカリカリで、踏まれていない雪面を滑っても加速するほど。そして、16:30 に佐渡大橋に帰着。なんとか明るいうちに下山できてよかった。

ほぼ休憩なしの 12 時間近い行動時間に加え、累積登高/滑走標高差 1,500m と相変わらず厳しい山であったが、天候にもトレースにも恵まれ、当初の目的は達成できたかな。

【今回得た教訓】

1. シールは家で装着しておく。さすれば、もう 5 分は早く歩きはじめられる。
2. pieps フリーライドは早くから装着し温めておく。以前から E04(電界強度低下)エラー音が鳴りっぱなしでうるさかった。ずっと原因がわからなかったが、恐らく低温によりエラーが生じていた可能性が高い。エラーというか、pieps 社製ビーコン特有の機能なのだが^^;。
3. 気温が高いときは水分も担ぐ。ワタシは山スキーではほとんど水分を摂らないのでテルモスに 500cc 入れてあるだけであったが、気温が高く行動時間も長かったためか後半はザラメをかじって渴きをしのいだ。余計にノドが渴くのは承知の上で^^;。練乳が欲しかった。
4. シールの扱い。一旦外れて雪が付くと大変。最初のうちは丁寧に雪を払って再装着していたが、後半は板とシールが全く付かずに浮いて難儀した。こんなときはテープで止めるよりも、慌てずにシールをアウターの中に抱いて暖めれば粘着力が復活するとのこと。
5. 行動時間の読みが甘かった。この時期は日が短いので、黒姫分岐で空が白み始めるくらいで良かったかも。山頂までイケず、ごめんなさい。

(K子 記)

2月11日(日) 東北 山スキーツアー (個人山行)

CL:K子(ボード)、他 AWC2 2名(ボード、山スキー)

2011年2月11日(祝)

午前1時50分に信濃町を出発。北陸自動車道、磐越自動車道から東北自動車道と進み、登山口に当たる「いこの村 栗駒」へ午前9時過ぎに到着。約 560km、7時間強の旅。除雪が終わったばかりなようで、早く来過ぎず

正解。「いこいの村」は宮城内陸地震の影響で閉館しており、駐車場もせいぜい5、6台止められるよう除雪してある程度。

今回はボード。初めてビンディングをいじってみた。設定は Front +21°、Rear +3°、setback は初の+1。さあ、どうなるか。09:30 出発！最初の大きなカーブから林道を外れて尾根に取り付き、高度を稼いでいく。きゅっ、きゅっ音がする雪面は極上の軽いパウダーで、スノーシューを外せば腰くらいあるのではないかな。あまりのパウダー加減でスノーシューの歯が立たず、何度も足をとられながら登っていく。

地図で避難小屋とある場所。夏は駐車場になるのかな？結局、どれが避難小屋かわからず、そこから少し登ったところにある建物で大休止(10:30)。標高わずか 1,100m ほどだが、緯度が高いため長野の 2,000m クラスの気候だ。風は強く冷たい。

標高 1,200m 付近の広くなだらかな尾根は強烈な風に雪が飛ばされクラストし、ブッシュが出ている。ホワイトアウトになったら厄介なので、コンパスと地形図をこまめに見ながら進む。標高 1,450m 付近からルートの方角が変わる。いよいよ栗駒本体への登高だ。ここでなんと青空が！しかし、風が強いっ！！フード全開で手を温めながら1歩、1歩登る。背負った板が風に煽られる。



そして、12:10 に念願の栗駒山(1,627m)登頂！巨大なマッシュルームがお出迎え。たぶん、山頂の標識と祠と思われる。板を履き替え、12:25 に滑走開始！お～！！極上の快適パウダー！！天気も急激に回復し、青空の下で広大な斜面を滑走！今までに行ったBCではトップクラスの最高な斜面であった！！まさかの青空に、歓喜の声が木霊する。

肩からはちょっと藪がうるさかったが、ガスも晴れたので進む方角もわかりやすい。所々に広い斜面があり楽しめる。セットバックの調子も良い！あまりに具合が良くて、林道最後の急斜面に突っ込む。上から「たいじょーぶー？」と聞かれて「大丈夫ー！気持ちいいよー！」と答えるが、この「大丈夫？」は「ルート、違くない？」って意味だったみたい。だって、めっちゃ美味しそうな斜面だったんだもの^^。スノーシューに履き替えると、すぐに林道に出た。

13:35 に、駐車場着。お疲れ様でした！が、ここからの下り道。ナビの言う通りに進んで迷子に。迷いに迷ってどこを行っても行き止まり！？1時間ほど彷徨って、結局、最初に来た道から帰ることに。まあ、これも楽しい思い出。

とりあえず、念願の栗駒山に、それも天気の良い中で登って滑れて、みんなの晴れパワーと日ごろの頑張り感謝！！ホント、2月の東北で晴れることは奇跡で、地元テレマーカーにも「こんな天気は滅多にないぞ！」とのことでした^^。

2011年2月13日(日)

楽しかった3連休のシメは、これまたずーと憧れであった福島・山形県境に位置する吾妻連峰へ！福島市からの国道115号はかなりの積雪なようなので、少し遠回りでも高速道路で猪苗代へ。五色沼を過ぎ、グランデコススキーリゾートを目指す。圧雪凍結路だったのでめっちゃ慎重に進み、午前9時半頃到着。すごい雪だー！装備を調べ、リフト回数券を3pt分購入(1,500円)。登山届をインフォメーションに提出。

ゴンドラ(2pt)、クアドリフト(1pt)を乗り継ぎ、ゲレンデトップへ。そこでスノーシューに履き替える。よく踏まれたトレースを発見！ゲレンデトップを10:40発。巨大な樹間を縫うように登る。マーキングも多い。



標高 1,850m 付近で傾斜が一旦緩む。モンスターのサイズもだんだんと小さくなってきた。山頂直下で団体さんに追いつく。どおりでトレースがしっかりしていたはずだ。ありがたや〜。出遅れたと思ったが、タイミング的にはぴったり^^。西大嶺(1,982m)山頂には 11:55 着。強烈に冷たい風が吹きすさぶ。標識もない丸い山頂だ。

視界不良。どうするか悩んだ末、折角なので西吾妻方面のコルへ一旦滑りこみ、再び登り返すプランに。団体さんは皆、このまま下山するようだ。風も強いし、天気もいまいちだしね。12:10 滑走開始。

尾根右側は雪庇がありそうな急斜面。樹林帯ぎりぎりのラインを滑る。うーん、パウダーで気持ち良いー！傾斜がないので、ものの 5 分ほどでコルの手前で止まってしまう。風もしのげるので、ここでのんびりランチタイム！暖かい紅茶で体を温め、しばしチビモンスターが乱立する世界を堪能する。

登り返しを始める。登り返しも楽しい。西吾妻の後ろに青空が。空も、山も広いなー。ものの10分ほどで再び西大嶺へ。モンスターたちよ、また来る日まで。すっかり天気も回復！

そして、13:05に西大嶺からドロップイン！前半は疎林で快適な斜面！後半はモンスター群を縫うツリーラン。ルートを選べばぶかぶかパウダーもいただけ、なかなか楽しいラン。そして、あっという間にゲレンデトップへ帰着、13:40。お疲れ様でしたっ！

快適にグランデコを滑走〜。下山の届出をし、お土産を買ったりしていると、再びグランデコはガスの間に。。。なんちゅうタイミングよくピークに行けたのだろう^^。

当初は3日間とも悪天でグルメ三昧ツアーになるかとヒヤヒヤしたが、結果的には奇跡的に2日間も好天に恵まれ、ちゃっかりグルメも堪能でき、濃厚な3連休となった！

山でのボードの機動力も再確認！いやいや、なんの。パウダーの浮揚感はダントツだし、悪雪やバーン、モナカにも強いし(スキーが未熟だからという理由も大きい^^;)、シールの付け外しに比べればスノーシューとの履き替えの方がスムーズにすら感じるぞ。

山スキー屋からはきっとあまりよく思われていない山ボードであるが(機動力の面で)、今回のツアーも通じて「アリ」じゃないかなーって思った。どうやったらソレを実証できるかな？やっぱ、とりあえずの目標は、ゼツタイに無理と言われているし、自分でも無理だと思っていた「ボードで大橋から日帰り乙妻」だなー。

(K子 記)

2月13日(土) 一ノ背髪村尾根スキー その2 (個人山行)

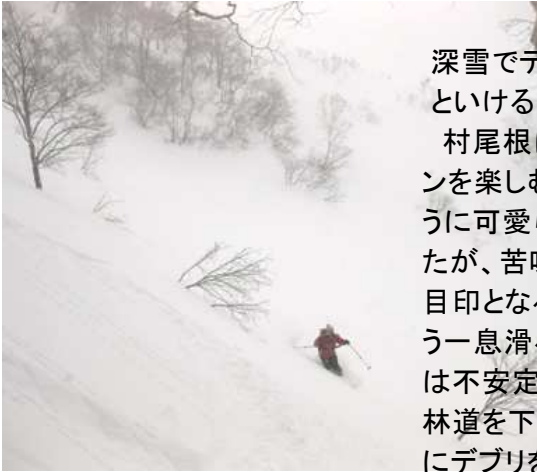
L:S矢 K原 S木 S矢

ゲレンデトップ(9:25)1850m 地点(9:55-10:15)八方沢出合(11:30)47ゲレンデ着(12:25)

大雪の3連休と言われていたが、白馬の町は十数センチの新雪しか積もっておらず期待を裏切られた感があったけど、雪崩のリスクが減ったので良しとします。それでも標高が上がればフカフカ雪がガッツリ。顕著な弱層は見られず、まずまず安定した雪。

去年は、どエラくしんどかったと記憶しているが、今回は本当に半日ツアーで楽しむことが出来た。確かにお手軽ツアーでしたね♪





1850mでドロップ。今回は尾根をそれて広いバーンを堪能。深雪でテレレ〜と滑ると埋もれてしまうけど、斜度があるので意外といける。軽やかに滑れば最高の浮遊感なんだろうなあ…(羨)

村尾根は若いブナ林の心安らぐツリーランが楽しめる。私もツリーランを楽しむも、やっぱり雪に弄ばれ気味であった(沈)。とっこさんのように可愛らしくコケられず、前傾で潔くコケる為に今回も沢山雪を食したが、苦味があって美味しくはなかった(泣)。

目印となる1332m地点の三本松だか杉だか何だかで休憩を取り、もう一息滑ると八方沢出合。今回は雪が断続的に積っており、ここまでは不安定な場所もなく比較的安心して滑れました。しかし、出合から林道を下る際に枝沢が何本か入ってきているのだが、その内の3本にデブリを見る。林道のすぐ上で止まっているものと、完全に下まで行

っているものも。このコースはお手軽だけど雪崩れのリスクが高いため安易な入山は厳禁と再認した。

ちょっつきり3時間ツアーで終了。休憩もしっかり取っての3時間ツアーで、ガッツリ滑れるのは有難し〜(^-^)/だからって、毎年何回も入山するK原氏とS矢旦那は病気だと思ってしまう私は、正常な人間だと思うのよ。

S矢(み) 記

2月13日(土) 五地藏山スキー (例会山行)

CL T島、M井、S藤、T田、N田、非会員W貫、

7:00 長野発—8:00 戸隠大橋—1533m10:20—五地藏山 12:00—戸隠大橋 16:00—長野 17:00

天気予報によると、今日は、天候が余り良くない。しかし戸隠大橋からシールを付けてあるき始めると、だんだん天気が回復し五地藏山がみえてきました。

まだまだ遠い道のりT島さん先頭で、ラッセル大変だと思いきや変わってやろうと思いつつも、皆から遅れてしまう。

12:00 山頂に到着。皆さんトレース有難う、次はもう少し体力付けてきます。山頂からの滑降は急で結構こげました、皆さん思い思いのシュプールを描き、16:00 ころ戸隠大橋に到着。楽しく充実した一日でした。又宜しくおねがいします。

T田 記

2月19日(土) 大渚山スキー (例会山行)

CL T島 M井 K林 K津 S木

行程:大草蓮 8:30 → 大渚山頂上 1566m 10:30(滑降)→1200m地点登り返し 12:45

→大渚山頂上 1566m 13:45(滑降)→大草蓮 15:00

大草蓮をほぼ予定通りに出発する。ラッセル覚悟で望んだ山であったけど、最初からトレースがある。大草蓮から林道を1000m地点まで登り、そこから尾根に取り付く。トレースがあるから、いや〜快適!というか楽に、あっという間に出発から2時間で頂上に到着。

今回の大渚山は、今シーズン初めての天気の良さ、気温も高くかなり暑くなり、徐々に雪が湿っていく。早く滑らないと雪が重くなり、パウダースキーができない。頂上で記念写真を撮り、10:30 滑降開始。けどこのまま降りれば12時前には終わってしまう。だから、登り返す予定で、400m程降下してトレースに戻る。

滑降場所は、登った尾根の北側の沢を滑ったので、途中から尾根に向かいトラバース気味で戻る。雪もやや湿っ



てきたので、皆さん、登り返すことにやや躊躇気味。けれど、このまま帰るには早すぎるので、私の行きたいという願いに付き合ってくれ、再び登り返し。

1 時間ほどで頂上に到着。先ほどの斜面を再び滑るが、さっきよりもう少し左側を滑る。雪はやや湿っていたけれども、思った以上に快適に滑れる。斜度もちょうど良く、樹林も少なく、雪も重いパウダー？で上々！今シーズン初めて満足の行くバーンを滑れた。登り返してよかったということで、皆さん満足して、本日の山行を終りました。

今日は、明るいうちに下山で良かったです。

T島 記

2月6日(日) 例会

出席者

M井、S川、T塚、K原、K池、T井(永)、S谷、S矢、S矢(み) /計9名

✽ 編集後記 ✽

我が家の密かなブームはプリティウーマン。英会話の教材にいいな～ということから、先日TVで放送していたプリティウーマンをちょくちょく見ている。で、あの中に登場する『リチャードギアがかっこいい!』と大騒ぎしていたら、うちのセラポンが“M井さんにそっくりじゃないか”と。ということは、我が会の会長はかなりのイケメン!？ということになる。皆さん改めてグーテンのリチャードをご覧ください。

/T

職場のデスクから大きな窓越しに浅間山とその連峰が見えます。顔を上げるとその景色がど～んと広がるから、ついつい眺めていることが多い。(今日は噴煙がすごい)とか、(今日は静かだ)とか、(雪がえらい溶けた)とか、日々の変化を楽しんでいる。それにしても霧島の新燃岳の噴火は、他人事ではない活火山の恐ろしさをまざまざと感じさせた。ますます浅間山から目が離せません。…って、仕事しろよ。

/T

「ニッポンインポッシブル」の「ひたすら県境を歩いてみよう」を見てた方います?できる限り県境を藪漕ぎしてでも忠実に辿るコンセプトが私の心を驚掴み!一般登山道のない山とか気になる私が「ひたすら県境」にはまるのは必然。長野県境では登山Mapを開き楽しんだのサ!素人芸人「乙(おつ)」が山男化して行く姿もかっこええ～♥ まあ、山男も行き過ぎると「むさ男」になっちゃうから適度がいいね(失言?)。冬の北ア突入で白馬大池～白馬岳敗退。今回は迂回したが、ぜひ三国境リベンジで梅海新道を抜けて欲しいナ～春山か夏の花街道の時期にでもね♪(この番組見てない人には通じない話題になってしまった…)

/み